

2021年1月21日

新潟県知事

花角 英世 様

新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会
委員 立石 雅昭 (新潟大学名誉教授)

声明 「技術委員会委員の再任を求める要望」

先般、新潟県原子力安全対策課から、次年度、私と鈴木元衛氏を表記技術委員会の委員に再任しない旨の通告がありました。その根拠として、委員の任命/再任にあたって、平成10年に制定、昨年改訂した「新潟県附属機関等設置及び運営基準要綱ならびに同要綱制定及び運用について(通知)」を適用するというものです。

私は、東京電力柏崎刈羽原発が2007年の中越沖地震によって被災したことを受け、その翌年から技術委員会委員を委嘱され、専門的知見を生かすという立場からその任に当たってきました。また、元原子力開発研究機構の鈴木元衛氏はシュラウドひび割れ問題が起きた後の2003年、すなわち、技術委員会の設置時から委員を務めてこられました。

私たちは2011年の福島原発事故後は、福島第1原発の現地視察を含め、事故の要因を検証する課題に真摯に対応してきました。現在、技術委員会は柏崎刈羽原子力発電所の安全性の確認にその検証結果をいかに活かすか、さらに、柏崎刈羽原子力発電所の安全性に関わる問題としてどのような課題があるかを各委員から提出し、議論を進めているさなかです。また、検証総括委員会の報告が出るまでは、技術委員会の検証の役割は継続しているものと考えます。一方で、東京電力や経済産業省資源エネ庁が柏崎刈羽原子力発電所の再稼働を急いでいます。

そのさなかに技術委員会委員を交代させるということは、これまで技術委員会で積み上げてきた検証内容や審議の経過、現に進行中の議論の継続性をないがしろにするものと考えます。鈴木氏も同意見です。

県民・国民の命と暮らしを守る上できわめて重要な課題であるからこそ、技術委員会で積み上げてきた議論を活かすために、ここに、新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員への私と鈴木元衛氏の再任を求めます。